

# 超臨界流体部会 *NEWS LETTER*

No.3 (2004)

ご存知のことと思いますが、本年度は化学工学会秋季大会は開催されず、The 10<sup>th</sup> APCChE Congress (第10回アジア太平洋化学工学会議)が計画されています。開催日時は平成16年10月17日(日)~10月21日(木)で、開催場所は小倉にある北九州国際会議場です。各部会がセッションを担当・運営しますが、超臨界流体部会では栃木先生を中心に準備をすすめています。まず招待講演者ですが、次の3名の方々にお願いしています。

Dr. Francois CANSELL (CNRS Research Director of Institut de Chimie de la Matiere Condensee de Bordeaux, FRANCE)

“Nano-materials using Supercritical Fluid”

Prof. Motonobu GOTO (Kumamoto University, JAPAN)

“Development of SCF Processes for Hazardous Solid Waste Treatment”

Prof. Ki-Pung YOO (Sogang University, Korea)

“Commercial Applications of SCF Processes with emphasis on Dry Dyeing of Aramide Fibers”.

それぞれ大変興味深いテーマです。この他、18件のオーラル発表を予定しております。ご発表は国内の15名(内5名海外研究者、留学生)の方々に、国外では3名(Taiwan, Malaysia, Thailand)の方々にお願いしています。さらに36件のポスター発表があります。国内より27件(内3名海外研究者、留学生)、そして国外より9名(France, Korea, China)の方々にご発表いただきます。以上のように、準備をすすめておりますので、多数のご参加をお願いします。

超臨界流体部会の5つのWG(1~5)では、研究動向を調査し、近く報告書としてまとめる予定です。調査、とりまとめにご協力いただいております各位に深く感謝申し上げます。また、化学工学会新井邦夫会長より会員増強キャンペーンのお願いがありました。部会員各位におかれましては、ぜひ一人でも多くの会員が得られますよう、ご協力をお願い申し上げます。

部会長 荒井康彦(九州大学大学院 教授)

**超臨界流体部会 第3回サマースクール**  
「環境負荷低減化技術としての超臨界流体の基礎と応用」

日 時：平成 16 年 8 月 9 日（月）14:00 ~ 8 月 10 日（火）12:00

担 当：長瀬 佳之 株式会社神戸製鋼所 加古川製鉄所

場 所：大阪ガス株式会社 奥池ロッジ

兵庫県芦屋市奥池南町 47-16 TEL 0797-38-0771 FAX:0797-38-0176

交 通：1. 阪神線「阪神芦屋」駅下車。阪急バス停「阪神芦屋」より乗車。

2. 新幹線「新大阪」駅にて東海道本線に乗り換え、JR「芦屋」駅下車。

阪急バス停「JR 芦屋南口」より乗車。

3. 阪急神戸本線「阪急芦屋川」駅下車。阪急バス停「阪急芦屋川」より乗車。

上記 1 ~ 3 とも、阪急バスの有馬（温泉）行き、芦屋ハイランド行きに乗車。

芦屋ハイランド行き：「ゴロゴロ橋」下車、奥池ロッジまで徒歩 10 分

山口営業所前行き 有馬行き：「奥池」下車、奥池ロッジまで徒歩 20 分

地図・バスの時刻表 をご参照下さい

定 員：50 名

参加費：（宿泊・食費・セミナー資料付）

部会員：¥10,000

学生会員：¥7,000

非会員：¥13,000

非会員（学生）：¥8,000

8/10 昼食希望者は 500 円増しになります。（ロッジ付近には飲食店はありません）

日帰り参加希望の方は事務局にご相談下さい。

\* 会費は当日集金致します。

お申込の締切日は7月25日(日)です。

### プログラム

1. 超臨界二酸化炭素を用いた環境調和型の有機化学反応  
宇都宮大学工学部 葭田 真昭氏
2. 超臨界二酸化炭素中におけるバイオプロセス  
龍谷大学理工学部 松田 知子氏
3. 超臨界流体を用いた射出発泡成形技術の実際  
出光石油化学株式会社 阿江 晴彦氏
4. 超臨界流体中における熱現象  
産業技術総合研究所 中納 暁洋氏
5. 超臨界水中での水素製造技術  
信州大学工学部 富安 博氏
6. 超臨界水反応による廃棄物リサイクル技術  
近畿環境興産株式会社 山西 一誠氏

The 10<sup>th</sup> APCChE Congress (第10回アジア太平洋化学工学会議)

開催日時：平成16年10月17日(日)～10月21日(木)

開催場所：北九州国際会議場

(1) 招待講演者3名の氏名、所属、講演タイトル

Dr. Francois CANSELL (CNRS Research Director of Institut de Chimie de la Matiere  
Condensee de Bordeaux, FRANCE)

“Nano-Materials synthesis using supercritical fluid”

Prof. Motonobu GOTO (Kumamoto University, JAPAN)

“Development of SCF Processes for Hazardous Solid Waste Treatment”

Prof. Ki-Pung YOO (Sogang University, Korea)

"Commercial Applications of SCF Technology in Korea on SFE, SFD, SCWO, SCORR  
and Nano-Materials".

(2) オーラル発表者の数

国内15名(内5名海外研究者、留学生)、国外3名(Taiwan, Malaysia, Thailand)  
計18名

(3) ポスター発表の数

国内27件(内3名海外研究者、留学生)、国外9名(France, Korea, China)  
計36件

(4) SCFセッションの日程

シンポジウム03；超臨界流体

オーラル：18日(月)13:30～17:00

19日(火)13:30～17:00

ポスター：18日(月)17:00～18:30

20日(水)17:00～18:30

<http://www.scej.org/apcche2004/>

21世紀を拓く「水」と「二酸化炭素」の利用技術 国際シンポジウム  
～人と環境に優しい化学プロセス～

INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON INNOVATIVE REACTION FIELDS

Towards Sustainable Chemical Processes

日 時：2004年9月13日（月）・14日（火） 9:30～17:30

会 場：東京国際交流館（東京都江東区）

参加費：無 料

主 催：独立行政法人 産業技術総合研究所・財団法人 化学技術戦略推進機構

後 援：経済産業省（予定）

協 賛：社団法人 化学工学会・社団法人 日本化学会・社団法人 高分子学会

開催趣旨：

超臨界流体利用技術の研究開発成果を通して、我々の身近に豊富に存在する水と二酸化炭素が持つ環境調和型反応場としての特性と重要性が明らかとなり、それら反応場に対して、温度・圧力操作による物性調整能と速度論的優位性を利用することにより幅広い自由度を付与できることが示唆、さらには実証されています。

そこで、これらの基盤的技術の知見をもとに、持続可能な社会の構築に必須となる21世紀型化学プロセスの創出に焦点を絞り、水と二酸化炭素の溶媒としての可能性・利用分野・方法・装置化など広範囲な観点から、現在トップランナーとして活躍されている研究者、技術者による講演と議論の場を設けるため、本シンポジウムを開催いたします。水と二酸化炭素の奥深い魅力を共有するとともに、多様な議論を通して新しいアイデアや実用化展開の可能性など、今後の化学工業の方向性を認識できる格好の機会とするべく、多数の皆様参加を歓迎いたします。

お問合せ（参加申込みもできます）：

財団法人 化学技術戦略推進機構 研究開発事業部 山科 直子

Tel：03-3599-8175/03-5283-3260

Fax：03-3599-8163/03-5282-0252

Email：naoko-yamashina@aist.go.jp

[http://unit.aist.go.jp/scfcenter/scf\\_sympo.html](http://unit.aist.go.jp/scfcenter/scf_sympo.html)